

研究の概要

20 23 年 4 月 27 日

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名：	生検における侵襲が妊娠へ与える影響
代表研究者 (所属・氏名)：	医局 中岡 義晴
研究の目的：	PGTを実施する際、レーザーで栄養外胚葉細胞(TE)の一部を採取します。胚盤胞全体は約100細胞あるため、数個の細胞を採取しても胚の生存には影響がないと考えられています。しかしTEが少ない胚では侵襲度が高くなり、妊娠やその継続に影響するという懸念もあります。本研究ではTE細胞数と生検細胞数の関係が妊娠に影響するか比較しました。
調査データ該当期間：	20 20 年 5 月 1 日 ~ 20 22 年 10 月 31 日
研究の方法 (使用する試料/情報等)：	2020年5月~2022年10月にPGT-Aを行い、移植可能胚が得られた52症例(69個)を対象としました。生検時の胚盤胞外周縁のTE数を数え、外周縁TE数が14以上か未満、さらに生検細胞数9以上か未満の組み合わせにより4群に分類し、各群モザイク胚率、妊娠反応陽性率(HCG \geq 2)および継続妊娠率(心拍確認)を比較しました。
個人情報の取り扱い：	研究に用いる患者個人情報の保護、プライバシーの尊重に努力し最大限の注意を払います。患者試料を分析する際には、連結可能匿名化を行います。また試料の分析から得られる情報についても、厳重な管理とセキュリティ体制の整備を徹底し、連結可能匿名化を行い符号のみで取扱いますので、個人情報は伝わりません。
本研究の資金源 (利益相反)：	利益相反状態はありません。
お問い合わせ先 ：代表電話 ：担当者(部門・氏名)	IVFなんばクリニック 06-6534-8824 生殖技術部門 渡部 菜美
備考	